

上海市の住民基礎年金制度

2021年1月より上海市都市部と農村部の住民基礎年金受給額が増額されました。受給対象は定年年齢（女性50歳、男性60歳）時点で、累積納付年数が満15年に達している者となります。

増額には具体的ルールがあります。

まず一人当たり一律月70元の増額、そして2020年までに女性満60歳、男性満65歳に達した者を対象に、月20元増額、さらに2020年12月に受け取った月額住民基礎年金を基準とし、3%増額されることになりました。

このような住民基礎年金受給額の増額は上海などの都市部だけでなく、近年全国的に実施されています。例えば山東省では118元から142元（24元増）、深圳では302元から322元（20元増）に増額されています。

人事・社会保障局が発した資料によると、上海市の2021年の退職者全体住民基礎年金の増額は、前年比4・5%増で、西部都市と比べると約100元多い結果となっています。受給額の最低水準は一人当たり月額1200元となり、約100元の増額が確定されました。

年金アップも農村部では不安大きく

しかし受給額が増額されたとしても、農村部で暮らす高齢者の生活に課題は残ります。

5月に発表された2020年中国人口センサスによると、退職制度のない農村部人口は上海市全体の36%と高い割合です。手厚い保障が約束されていない農村部の人たちは、高齢になり、仕事から離れたら、社会保障制度や子孫に頼るほかありません。しかし、安価で介護を受けられる施設が少なく、また、子孫は都市部に出稼ぎに出ているケ

ます。農村部の高齢者は、歳を重ねるほど、不安が大きくなっていくようです。年金受給額が増額されても、高齢者の生活に関する課題が解決されていないわけではないのです。



中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経理
稲田義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。